

1955年のクラウン誕生以来60年、時代が求める革新を実現した正統派セダン。

クラウン60周年



1955年に本格的な純国産乗用車として誕生したクラウンは2015年で60周年を迎えた。初代モデルは観音開きのドアを持ち、高級車にふさわしい内装で仕上げられるなど、多くの人の憧れの的となる。さらにマスターラインと呼ばれるライトバンや荷台を持つピックアップなどの派生車種も生まれている。3代目まで車名はトヨペット・クラウンだったが、4代目モデルからはトヨタ・クラウンに変更。トヨタを代表するとともに、日本を代表する高級車として進化していくことになる。高級セダンでありながら、常に国産車販売ランキングのベスト10に顔を出してきたクラウン。60年の伝統を大事にしながらも先進性を保ち、これからも多くの人に愛されていくことは間違いないだろう。



ITSコネクと先進装備 ITS Connect & Advanced equipment

信号機などの路側施設とクルマ、クルマとクルマといった双方向通信を可能とするITSの専用周波数(760MHz)を活用した「ITS Connect」を世界で初採用。路車間通信システムが整備された地域であれば、赤信号の見落としを防ぐ警告を発したり、右折時に対向車や歩行者の存在を知らせて警告を発するなど、事故を未然に防ぐ方向で安全運転を支援してくれる。また、車車間通信機能を備えたクルマ同士であれば車間距離を自動的に調整してスムーズな走行を支援し、さらに緊急車両の接近方向などを知ることができる。加えてドアミラーで確認しにくい斜め後ろ方向のクルマの接近を知らせるブラインドスポットモニター、駐車を支援するインテリジェントパーキングアシストなど、先進の運転支援システムも万全だ。



高級セダンとしての基本性能 Basic performance

新型クラウンではボディやサスペンションも見直され、走りの質感を格段に高めている。ボディの基本的な部分は変わっていないが、接合部に初めて構造用接着剤を採用するとともに、スポット溶接を90カ所以上打ち増して剛性を強化。スポット打ち増しによる剛性アップはよく知られる手法だが、構造用接着剤の使用により質感が大幅に向上し、操舵時のレスポンスや走行安定性が向上しただけでなく、走行時の上質感が一段と高められた点に注目したい。また、ボディ接合部の剛性アップにともない、ショックアブソーバーなどサスペンションのチューニングも最適化。ドライバーは運転を堪能しながら、同乗者はより快適な移動を楽しめるクルマに仕上がっている。



一段と魅力的に「お客様の笑顔のために」が今回のキーワード!

上品な美しさのロイヤル Royal

落ちついた雰囲気と品格の高さを感じさせるロイヤルシリーズもフロントスタイルをリファイン。厚みのあるフロントバンパーが押し出し感を強調する一方で、低く置かれたロアグリルまで囲むクローム加飾が上質さを感じさせる。より精緻な仕上げがなされたフロントグリルは光を受けて美しく輝き、高級感を演出。ボディカラーには顔料となるアルミ粒子の並びを整える技術を採用した「プレジヤスシルバー」も用意され、立体感のある洗練されたボディフォルムをより際立たせる。インテリアはオーソドックスなブラックに加え、日本古来の「亜麻色」を意味するフラクセン(淡い褐色)と、格子柄の木目調パネルを組み合わせたものも用意。その仕上がりはまさに逸品の味わいだ。



■ 2.5 ロイヤルサルーンG



■ Hybrid ロイヤルサルーンG(内装色:フラクセン)

スポーティなアスリート ATHLETE

クラウンの主力グレードとなったアスリートシリーズは、フロントグリルを下方向へ拡げることでダイナミックさを強調するとともに、見る方向によって表情が変わる立体メッシュを採用。それを囲むメッキモールのデザインも筆で描いたような造形とし、精悍さが一段と増している。リアに回るとひと回り大きなリング形状となったリアランプが力強さを演出し、走り去る姿を印象づける。インテリアに目を移すと、鮫物のメノウ(瑪瑙)をモチーフとした透明感のあるパネルが高級感を醸し出し、新設定のターボ車はブルシアと名付けられたブルー系の専用内装色でコーディネート。クラウンにふさわしい高級感を損なわず、スポーティ感を高めたデザインの満足度は高い。



内装色:ブルシア



■ 2.0アスリートG-T

2.0ℓ直噴ターボエンジン Turbo engine

アスリートシリーズには新設計の2.0ℓ直噴ターボエンジン搭載車を新たにラインナップ。4気筒の8AR-FTS型エンジンは先進の直噴技術とツインスクロールターボチャージャーを組み合わせ、優れた過給効率によりハイパワーと低燃費を両立。1650~4000rpmという幅広い回転域で最大トルクを発生し、水冷式インタークーラーの採用により、エンジンの熱負荷に左右されずにパフォーマンスを発揮する。駆動力統合制御システムを備えた8速AT(スーパーE-CT)の貢献も大きく、低速域から高速域までクラウンにふさわしいドライバビリティを堪能できる。アトキンソンサイクルの採用、エンジン内部の損失改善などにより、JC08モード燃費13.4km/ℓを実現している点も見逃せない。



■ HybridアスリートS

Turbo engine ■ 2.0ℓ 8AR-FTSエンジン



アスリートシリーズには吟味された12色のボディカラーを選ぶことのできるジャパンカラー・セレクションパッケージがオプションで設定される。通常のボディカラーでは選べない色も用意され、さらにすべてのカラーに和名がつけられている。たとえばうすすらとした上品なピンクは「灰(ほのか)」、強いきらめきを持った深く重厚な青には「紺碧(アオ)」、濃く落ち着いた味わいの深い緑色には「常盤色(ときわいろ)」といった色名が付けられ、さらにそれぞれの色合いを「暁のかげ」、「はつ香り」など4つのテーマに分けるなど細かい演出がなされている。インテリアカラーもブラックに加えて白や茶系の「こがね」も用意されており、自分なりのカラーコーディネートを楽しむことができる。



ジャパンカラー・セレクションパッケージ

自分だけの特別なクラウンを選べる — 日本ならではの繊細な十二色